

第50回学習会を、平成26年1月17日(金) 19:00~20:00 福岡市教育センターにて行いましたので報告いたします。

第50回の内容

講師 重枝一郎先生

アサーションTR

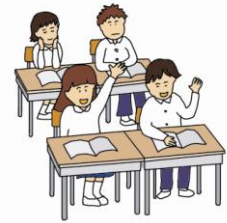
- 1 アサーションとは
- 2 アサーションTR
- 3 演習「ダメダメゲーム」「ロールプレイ」
- 4 演習「コンセンサス実習」



アサーションTR

1 アサーションとは

- ・ 自他相互尊重の精神で行われるコミュニケーション
- ・ さわやかな自己表現 (平木典子氏)



4つのポイント

- ① 言いたい気持ち (自分を大切に)
- ② 率直に素直に (わかりやすく話す)
- ③ その場の状況に合った適切な方法 (相手も大切に)
- ④ 十人十色のアサーション

正解、マニュアルはない

自信をなくす生徒を生んだら本末転倒

2 アサーションTR

- (1) 「アサーションとは」を説明する
 - ・ 自分と相手を共に大切にするコミュニケーション
 - ・ 学校はそれをみんなで考えるところ

攻撃的自己表現 (いばりやさん) (ジャイアン)

非主張的な自己表現 (おどおどくん) (のび太)

アサーティブ (さわやかさん) (しずかちゃん)

でも、言葉そのもの以上に、それをどういった心持ちで言おうとするかが大切 (十人十色)

解説

生徒指導総合講座とは？

生徒指導とは、社会の中で自分らしく生きることができる大人へと児童生徒が育つように、その成長・発達を促したり支えたりする意図でなされる働きかけ総称のことです。

すなわち、

学校生活の中で児童生徒自らが、その社会的資質を伸ばすとともに、さらなる社会的能力を獲得していくこと（社会性の育成）

そして、

それらの資質・能力を適切に行使して自己実現を図りながら自己の幸福と社会の発展を追求していく大人になること（社会に受け入れられる自己実現）

そうしたことを願って児童生徒の自発的かつ主体的な成長・発展の過程を支援していく働きかけのことを、生徒指導と呼んでいます。

文部科学省国立教育政策研究所 生徒指導リーフ より

風土会では、子どもたちの社会性を育成するために、教師が自発的・主体的に学び合っています。

教科指導と生徒指導は表裏一体で、どちらか一方がよくなったり悪くなったりすることはありません。

「総合講座」というスタンスは、教科指導も生徒指導もすべてを関連付けて、学校の教育活動を総合して捉えているという意味です。何かの教科だけとか生徒指導だけというように、特化していないところが特徴です。

1学期のビジョン

1学期は、子ども達がまとまることへの抵抗感をなくすようにします。

「集団づくり」では、全体を見るというよりも、集団の中で「個」を強くするように考えます。

「個」が強くなることで、「集団」が高まります。

このような考えで、実践をします。

「個」を強くするためには、固定化したグループをつくるのを避け、お互いを知り、個々の特徴を知ることができる場を意図的につくります。

人間関係をつくる場合、集団で人を見ると不安が押し寄せます。しかし、1対1で人とつきあうと、不安がなくなります。

まずは、「個」を強くするような働きかけを、教師が意図的に行います。それは、集団活動を通して、ルールとリレーションづくりを同時に行う中でします。まずは、教師による「しつけ」が大切になります。

2学期のビジョン

2学期は、「誰とでも組める力」を身に付けさせます。

「誰とでも組める力」をキャッチフレーズにして、子ども達に浸透させます。

このように、教師が「キーワード」を示し、望ましい姿を提示することは、先手的な開発的生徒指導になります。

「誰とでも組める力」を発揮している姿を見つけたら、すぐに子ども達を評価し、フィードバックします。教師が見ていてくれると子ども達が感じることで、望ましい姿を浸透させます。

3学期のビジョン

3学期は、「認められ感を高め、自分らしさに強く気づかせる」ようにします。子どもたちに「自信をもたせたい」学期です。

そのためには、「個」を強く育てることにこだわります。

いろいろなメンバーからプラスのフィードバックを受けながら、「いい顔」で進級できるようにします。

「意欲からの落ちこぼれ」を生まない学級経営、学年経営をしていきます。

アサーションとは？

アサーション TR は、何学期にでもできる教育活動です。

アサーションの定義は、「相手の立場に立った自己主張、自己表現」です。

アサーションは、1950年代にアメリカで生まれ、行動療法家のウォルピーが発案しました。1960年～1970年代にかけて、人種差別撤廃運動を背景に、アサーションが注目されました。

アサーションには、相手との信頼関係を保ちながら、自分の思ったことを自分の本来の意志通りに相手に伝えていくために必要な4つの柱があります。

- 1 誠実：嘘偽りがない、正直に心を込めた態度
- 2 率直：遠回しやくどくどせず、シンプルに話す
- 3 対等：人としての上下がない
- 4 自己責任：自分の言動は自分で判断し、人の言いなりになったり、人のせいにしたりしない

アサーションを授業化するには

「アサーション」の授業では、ある場面設定をして子どもにセリフをつくらせ、ロールプレイをさせることがあります。それも、アサーションについて考えさせる授業になるのですが、何かしっくりこないと感じることがありました。

言葉を考えさせるよりも、それをどのような心持ちで言っているのか、それを感じさせる授業が「アサーション」の本質に迫る授業になるのでは……。

コミュニケーションの苦手な子どもにとっては、授業は受けたけれど、上手にできなかった……オドオドしてしまう……等、自信をなくすようであれば、本末転倒になるのでは……。

「アサーション」の授業づくりについて、実践を通して悩んだ結果、今では次のように考えています。

学級に信頼関係ができていれば、ていねいな言い方をする方が、よそよそしく感じるかもしれません。少しくらい乱暴な言い方でも、気持ちは通じ合っているのかもしれません。

正解やマニュアルはありません。

十人十色のアサーションがあり、子ども達が「授業が楽しかった！」という満足感を得ることができれば、それでよし！

学校は経験を積むところです。みんなで考えるところです。「アサーティブに生きよう！」と前向きに思えるような授業を、子どもがグッとくるような授業をめざしたいです。



授業と日常の双方向で

アサーションについて説明する場合、次のような話をして子どもに伝えるようにします。

買い物をしていて長い列に並んでいたのに、人が割り込んできたなら何と言いますか？

「どけ、そこ！」では、相手にストレス100%・・・自分はストレス0%

割り込んできた人を見ても何も言えないと、自分にストレス100%・・・相手はストレス0%

自分も相手もストレスがたまらない表現が、「アサーティブ」です。

「すみません、みんな並んでいるので、後ろに並んでもらえますか」という表現になります。

ドラえもんに例えると、ジャイアンは「攻撃的な自己表現」

のび太くんは「非主張的な自己表現」

しずかちゃんは「アサーティブ」（さわやかな自己表現）になります。

このような表現を、日常的に意識させます。

一度、授業をしておくと、日常でも「今の言い方はアサーティブかな？」「どうしてそう思う？」等、子ども達に考えさせることができます。

ただし、アサーションの授業をしたからといって、劇的に子ども達が変わることはありません。日常と関連付けて、子どもの心を耕していきます。それが、教室の空気をつくります。

「ごめんなさい」「ありがとう」「あんな風に言われてうれしかった」「悲しかった」
子どもの本音を引き出すようにして、アサーティブな表現を広めます。

日常の中に、子どもの気の利いた言葉や素敵表現があると思います。教師はそれを見逃さず、全体で学び合い、みんなで使ってみるようにします。

また、教師もアサーティブに振る舞います。姿や表情、言動を子ども達に見せ、モデルを示します。

そして、気持ちを共有します。

感情は伝染します。気持ちを共有して教室の空気づくりを心がけると、学級の風土になります。

4段階話法

友だちからの誘いを断る方法に、セリフを4つに分解する「4段階話法」があります。

「無理、無理」と簡単に断るのではなく、

- ①相手に応えられない残念な気持ち・・・「ごめんね」
- ②断る理由・・・「実はその日、部活動の大会があつてさ」
- ③断る・・・「だから、遊べないんだ」
- ④代わりの案・・・「来週なら大丈夫だよ！」

このような「アサーション」の授業は、ソーシャルスキルの授業とも関連させることができます。



演習 「アサーションのロールプレイ」

アサーションのロールプレイを子どもにさせる前に、実際に教師が体験しておく、どのように授業をすればよいか、イメージがわきます。

ロールプレイのパターンとしては、下記の3つの表現を演じてみて、どのような気持ちになるか体験し、よりよい自己表現を学びます。

「攻撃的な自己表現」・・・ ジャイアン

「非主張的な自己表現」・・・ のび太くん

「アサーティブ」(さわやかな自己表現)・・・ しずかちゃん

セリフが全部書いてある台本を読み合わせる方法や、シチュエーションだけ説明して、実際にセリフを考えさせる方法があります。

学級の実態に応じて、子ども達に自信をもたせるような授業を、教師も楽しみながら実践してみましよう。

演習 「ウィンターサバイバル」 コンセンサス実習

「ウィンターサバイバル」というコンセンサス実習は、多数の考え方を集めて、様々な角度から課題を考え答えを探すグループ・ワーク・トレーニングです。

課題解決のために互いの意見を出し合い、合意に達することがねらいです。

課題は、雪山に不時着したヘリコプターから、

ライフル銃1丁、大箱のマッチ1箱、5日分の朝刊、方向のわかる磁石1個、スキーセット1組、20cmのナイフ1個、板チョコレート10個、大型の懐中電灯1個、ウイスキー1びん、固形の油の入った金属缶1個

以上について、持ち出す順番を決める内容です。

まず、自分で考え、互いの意見を出し合い、チームで順番を決めます。

正解は、以下の通りです。

A	ライフル銃	6	音の合図として使えます。
B	徳用マッチ	1	寒さを防ぐのに役立ちます。また、物を燃やして救助隊に居場所を知らせることができます。
C	新聞紙	5	火をつけるのに便利です。服の下に入れると寒さを防げます。大きく広げると目印にもなります。
D	方向用の磁石	10	移動に使えそうですが、冬山でむやみに移動すると危険です。
E	スキー一式	8	助けを求めに行くのに使えそうですが、移動は危険です。旗を立てる棒や燃やす材料ぐらいには使えます。
F	ナイフ	7	枝を切って燃やすぐらいしか使えません。凶器になります。
G	板チョコレート	2	食べればエネルギーの源になります。
H	大型懐中電灯	4	合図として役立ちます。近くの移動にも役立ちます。ただし、温度が低いので電池は長持ちしません。
I	ウイスキー	9	飲めば体が温まりそうですが、眠くなるので危険です。消毒には使えます。
J	固形油の金属缶	3	体に塗れば寒さを防げます。燃やすこともできます。缶のふたで太陽を反射させて目印にもなります。

このようなGWTを通して、話し合い活動に親しませ、授業での話し合い活動と関連付けます。

授業では、意見が言えない子どもも、ゲームだと自信をもって話し合いに参加する姿を見ることが出来ます。

本日のキーワード

- 十人十色のアサーション
- モニター力をつける
- 集団の中で「個」を強くする

♪ 学習会に参加された先生方の感想 ♪ (参加人数 27名)

- ・初めての参加でとても緊張しましたが、講師の先生のお話に引き込まれ、楽しく学べました。自分で本を読んだだけでアサーションを授業で実践してみようと思っていましたが、今日のお話を聞く前にやらなくてよかったと思いました。自信をもって授業ができる気がします。
- ・アサーションという言葉は、よく耳にしていましたが、どのように子どもたちに授業をすればよいのかわかりませんでした。今回、授業をするイメージをもつことができ、参加してとてもよかったです。
- ・アサーショントレーニングは、人権学習や道徳で取り組んだことがありましたが、本を読んでその通りにしても、何かしっくりいかない感じをもっていました。今日、重枝先生のお話を聞いて、授業の進め方のイメージがわき、どうすれば生徒が「なるほど!」と少しでも感じる授業になるかがわかりました。あとは、自分が実践しながら、少しずつ自分のものにしていく必要があるのでしょうか。
- ・この活動を通して、生徒が「楽しかった」「気持ちよかった」と振り返ってくればよいという話を聞いて、やってみようと思いの壁がなくなりました。
今の自分の気持ちのように、元気になった!と生徒が思えるように、学活をしたいと思います。まずは、学年会で提案します。とても勉強になりました。

(参加した先生方が、「やってみよう」と思えるように、不安の壁をなくす「風土会」でありたいです!)

- ・今日の6時間目の集会で、アサーションの歌を学年で歌いました。温かい雰囲気になりました。
先日、本校のコミュニケーション・トレーニングで、アサーションの授業をしました。
「自分は、超攻撃的!」と自分をモニタリングする生徒を見て、この時間が生徒にとって、自分を振り返らせる有意義な50分になったと、うれしい気持ちになりました。
これからも、実践していきたいです。
- ・アサーションの授業は、公開人権学習のときに行いました。しかし、当日は思うような授業ができずに後悔しました。生徒に気づかせたいと思っていたことをうまく伝えられず、形だけの授業になってしまったと思います。アサーションについて、自分自身がよく理解してから、もう一度リベンジしたいと思います。
- ・アサーション TR という言葉をはじめて聞き、自分自身の言葉遣いを振り返りました。
今の自分は、どちらかといえば、「攻撃的」な言葉遣いになっていると思います。自分自身、モニター力が不足していると実感しました。
まず、自分自身が「アサーション TR をしなければ」と思いました。
- ・まず、重枝先生が最初におっしゃった、風土会の目標のひとつである、「生徒指導と教科指導は両輪で、どちらもよくなる」ということと、「集団をつなげて、個を強くする」という言葉が印象に残りました。
今回のアサーション TR で学んだ、自他相互尊重の精神で行われるコミュニケーションを、生徒に意識させることができるようになります。

(アサーションの歌を歌っている学校があるのを知って、とてもうれしくなりました。失敗を恐れず、まずは、実践してみようと、一歩前に踏み出すことから、すべてが動きはじめます!そして、自分をモニタリングすれば、実践力が高まります!!)

※アサーションについては、会報No.19「ベーシック・アサーション」も参考にしてください。

